

募集要項

参加費

①会場参加

社会人 15,000 円、学生(会員校) 6,000 円、学生(一般校) 7,000 円
※会場参加の参加費には宿泊・食事代・資料代、消費税を含みます

②Zoom を用いたオンライン参加

社会人 6,000 円、学生(会員校) 1,000 円、(一般校) 2,000 円
※オンライン参加の参加費には資料代、消費税を含みます

募集について

募集開始 2021年7月1日(木) 募集締切 2021年11月4日(木)

応募方法「大学セミナーハウスHP申込フォーム」よりお申し込みください

<https://iush.jp/seminar/2021/06/438/>

詳細・申込ページ



古田武彦記念 古代史セミナー 2021 — 「倭の五王」の時代 —

開催日時 2021年11月13日(土)～14日(日)

開催形式 会場参加とZoomを用いたオンライン参加の
同時双方向型ハイブリッドセミナー

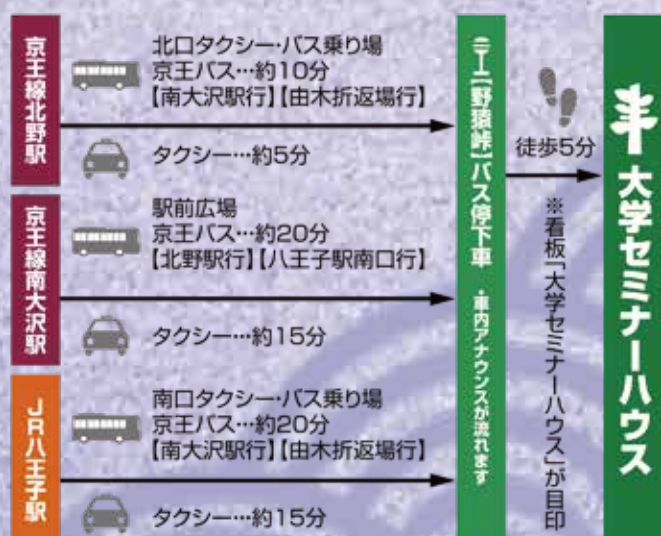
対象 当セミナーに関心のある方ならどなたでも

開催場所 (会場) 公益財団法人大学セミナーハウス
東京都八王子市下柚木 1987-1
(オンライン) Zoom ミーティングルーム

主催 公益財団法人大学セミナーハウス

共催 多元的古代研究会 / 東京古田会 / 古田史学の会 / 古田史学の会・東海

◆アクセス



お問い合わせ

公益財団法人大学セミナーハウス セミナー事業部

Tel : 042-676-8512 (直) Fax : 042-676-1220

Email : seminar@seminarhouse.or.jp

ホームページ : <https://iush.jp/>



2004年第一回古代史セミナー

古田武彦記念古代史セミナー 2021

「倭の五王」の時代

昨年開催した「古田武彦記念古代史セミナー 2020」では卑弥呼の時代（3世紀）に焦点を当てましたが、今年は、「倭の五王」の時代（5世紀）に焦点を当てることにしました。

私は子供の時から歴史に興味がありましたが、日本古代史に強い関心を抱いたのは、大学1年生の時に井上光貞助教授（当時）の講義を聴いたときからでした。井上先生は講義の中で「倭の五王」を採り上げられ、「讚≡仁徳又は履中」「珍≡反正」「済≡允恭」「興≡安康」「武=雄略」であることを説明されました。しかし、そこで井上先生が挙げられた「=」又は「≡」の根拠理由の殆どが私には「≠」の根拠理由に思えました。例えば、「武の在位期間は478年から502年、雄略の在位期間は456年から479年」は私には「武=雄略」の根拠ではなく「武≠雄略」の根拠に思えました。1959年のことでした。しかし、それ以上深く疑ってみることはありませんでした。

私が次に「倭の五王」に興味を持ったのは、古田先生の第2書『失われた九州王朝』（朝日新聞社1973年8月8日発行）に接した時でした。物語として古代を語るのには夢がありこの上なく楽しいのですが、古代史学においては科学的な「史実」の確認が基本であり、その作業はevidence-basedでなければなりません。古田先生は『失われた九州王朝』において、「倭の五王」の時代を含めて九州王朝に関するevidence-based historyを垂範して下さいました。

とはいえ、「倭の五王」の時代は卑弥呼の時代に比べて情報量が少なく、同時代史料といえるものは『宋書』と高句麗好太王碑くらいしか知られていません。そのために、「倭の五王」が「どこにいたか」「何をしていたか」に関するevidence-basedな解明が進んでいないと言わざるを得ません。

その様な中であって、河内春人先生の近刊『倭の五王 王位継承と五世紀の東アジア』（中公新書2018年1月25日発行）は、「倭の五王」の時代を学ぶ者にとって必読の書であると考え、河内先生に特別講演をお願い致しました。

このセミナーでは、河内先生のお話をお聴きし、『失われた九州王朝』をもう一度読み返すことにより、古田先生の古代史学の研究方法を再確認した上で、「倭の五王」の時代のevidence-based historyについて建設的な議論が盛り上がることを期待しています。

このセミナーは、研究者のみならず、古代史に関心を持つ全ての人を歓迎します。このセミナーが、若い人々が真実の古代を覗く窓になれば幸いです。

このセミナーは、大学セミナーハウスと多元的古代研究会、東京古田会、古田史学の会及び古田史学の会東海が共同で開催します。



- ◇委員◇
- 大墨 伸明
 - 大越 邦生
 - 萩野谷正博
 - 橋高 修
 - 竹内 強
 - 西坂 久和
 - 富川ケイ子
 - 和田 昌美

スケジュール

11月13日(土)

- 11:30～ 受付・昼食
- 13:00～ 開会
- 13:30～15:30 特別公演(河内春人先生)
- 15:40～18:30 セッションI
- 18:30～ 夕食
- 19:30～21:30 情報交換会

11月14日(日)

- 9:00～12:00 セッションII
- 12:00～ 昼食
- 13:00～14:20 セッションII(質疑応答)
- 14:30～16:10 セッションIII
- 16:10～ 閉会
- 16:30 解散

特別講演 「五世紀の倭王権とその実体」

こうち はるひと
河内春人（関東学院大学准教授）

従来、五世紀以前の列島における支配のあり方については、記紀の記述を主軸としたうえでその他の史料を記紀の叙述に合わせるかたちで理解することが多かった。ヤマト政権の成立について記紀には、神武東征、四道將軍派遣、ヤマトタケルの遠征、神功皇后の三韓平定など軍事的な拡大として記している。しかし、考古学的な実態を勘案するとヤマト政権の軍事的成立という視点は成立しない。また、記紀に記される皇統譜は、それが成立した八世紀の皇位継承を念頭に置いて再編集されたものであり、五世紀の王権の実態を示すものではない。本講演では、五世紀の倭王権について外からの視点で記された中国・朝鮮史料と考古学的成果に基づいて、その実像について探るものである。



河内春人先生プロフィール

関東学院大学経済学部准教授。1970年生れ。博士（史学）。著書に『倭の五王－王位継承と五世紀の東アジア』（中公新書、2018）、『日本古代君主号の研究』（八木書店、2015）、『東アジア交流史のなかの遣唐使』（汲古書院、2013）など。

講演

各講演の要旨は
ホームページを参照ください ⇨
<https://iush.jp/seminar/2021/06/438/>



セッションI 文献を徹底して読む

- そうだったのか「倭の五王」 大越邦生
- 『宋書』から倭国の中心地を読み解く 大墨伸明
- 卑弥呼・壹与から倭の五王への変遷 橋高 修

セッションII 倭の五王は何処にいたか

- 倭の五王は太宰府に都していた 内倉武久
- 「倭の五王と都城」および古代国家形成と都城問題 草野善彦
- 「倭の五王」の時代の考古学－古田武彦「筑後川の一線」の再評価－ 古賀達也
- 「太陽の道」は倭王の居所を指し示す 長谷川宗武（谷川修）

セッションIII 倭の五王時代の日本列島

- 倭の五王時代の関東 田中 巖
- 武器・防御遺構の分布から見た“倭の五王”の活動領域とその中心 大下隆司